

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	long noncoding RNA(HOTTIP, PVT1, H19)の発現は膵癌術後補助化学療法の効果予測因子となるか？
	研究目的	膵癌術後補助化学療法施行例の tissue microarray を用いて, long noncoding RNA の発現と生物学的特徴を解析し, ゲムシタピンまたは S-1 による膵癌術後補助化学療法の効果予測が可能かどうかを明らかにする.
	研究対象者	2005 年から 2016 年までの間に, 神奈川県立がんセンター肝胆膵外科で治癒切除され, 術後に補助化学療法を施行された膵癌症例を対象とする.
	研究期間	西暦 2018 年 9 月 7 日 ~ 西暦 2019 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器外科 神谷真梨子
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	神奈川県立がんセンター 消化器外科(肝胆膵)
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	神奈川県立がんセンター 臨床研究所・がん分子病態 宮城洋平先生